

# 生活介護事業所ではたらくことの支援をする際の葛藤



社会福祉法人 みどりの樹 生活介護事業所ループ歩  
まつぼっくり 齋藤 麻子

## はじめに

まつぼっくりは、生活介護事業所ではありますが、作業所時代からこれまで、パンやお菓子を作る作業を活動の中心にしてきました。

今回は、ある利用者さんとのかかわりの中で抱いた自分自身の支援者としての葛藤をお話させていただきます。

まだまだ、自分の中で整理された答えは見出しきれいていませんが、聞いていただくみなさんとも意見交換をしながら、この葛藤を深め向き合い続けてみようと思っています。

# はたらくことを中心とした 生活介護において、 トイレにこもってしまった Aさんのケース

## Aさん

---

28歳 女性

まつぼっくりに通い続けて10年目

聴覚障がい＋知的障がいをもっている

コミュニケーション方法は、主に簡単な手話と指文字等。「あー、あー」と話す。

話しかける時には、大きな声でゆっくり伝えるか、手話や指文字等で会話をする。

目を閉じていることが多く、人にぶつかりやすい

外出や食べるのが好き。(歯がぼろぼろで前歯はほとんど抜け落ちている)

人と関わること、ボディタッチも好き。加減ができず、嫌がられてしまうこともある

注意されたり、大きな声を出している人がいると、不穏となることが多い

大きな声を上げたり、机をたたいたり、壁に頭を打ちつけたりする

## きっかけ

---

入れ歯を入れる練習をしていたAさん  
作業中、入れ歯をつけていたがすぐに外してしまう  
入れ歯を入れることが嫌なので、トイレにこもりだす  
(まつぼっくりの職員の異動や、  
同居家族の弟が一人暮らしになったりし、環境の変化も考えられる)



⇒このことをきっかけにトイレにこもる技を習得したと思われる

## Aさんのその後の様子

---

以前は、他の利用者さんと一緒の時間に作業を始められていたが、難しくなる  
トイレにこもっている時に、職員が  
「作業を頑張ったら、マスクをあげるよ」  
「作業を頑張ったら、お母さんコーヒーを買ってくれるかも」  
と声かけをすると、トイレから出てこれることもあるし、出られないこともある

以前は、1日に何時間もトイレにこもることが続いていたが、  
最近では減ってきている  
トイレに行くことは頻回である。

## 職員のモヤモヤ

- 作業をやりたくないのかな？
- 作業内容が嫌なのかな？作業室が不快なのかな？  
(個人の問題？環境面の問題？)
- トイレが居心地よいのかな？
- 本人の意思を尊重して、作業を続けなくてもいいか？
- 作業に入ればできることがあるのに…



## 齋藤麻子のモヤモヤ

- そもそもAさん自身は「はたらきたい」と思っているのか？  
自分の意思を言葉として表出することが難しい方々の想いをくみ取れている？  
保護者や職員の「はたらかせたい」を押し付けていないか？  
⇒Aさんのケースを深め、理解したい  
⇒障がいをもつ方ははたらくことの支援について、理解を深めたい
- まつぼっくりは「はたらく生活介護」と言われている  
どうしてはたらくことに重きをおいたのか？歴史を知りたい  
⇒生活介護事業所で、まつぼっくりで、みどりの樹で、  
はたらくことにどういう価値があるのだろうか？



## Mラーニングでの取組み

---

### ①Aさんの理解を深めよう！

- ・ケースをもう一度整理し、母親へも聞き取り。
- ・法人内でのケース検討会

### ②事業所の理解を深めよう！

まつぼっくりを立ち上げた母親の方々へインタビューを行う

### ③「はたらく」ことの支援について考えよう！

わの作業所学会での発表を通し、多角的な視点から「**はたらく**」について考える

## ① Aさんの理解を深めよう！

---

ケース検討会を通して、  
まつぼっくりで「はたらく」ことをベースに支援していこう！

＜今後の支援方針＞

- ①本人にとっての役割をつくる
- ②表を作ってシールをはる
- ③ライムでのケースを参考にする



# 本人にとっての役割をつくる



<布にコロコロをかける作業>



<紙袋にスタンプを押す作業>

あまのゆいさん

さぎょうがんばったら、








をはる



が5こ⇒



	月	火	水	木	金
ごぜん			<del>      </del>		✓
	月	火	水	木	金
ごご		<del>      </del>	<del>      </del>		✓

## ② 事業所の理解を深めよう！

Q.まつぼっくりを立ち上げたきっかけは？

当時(1980年代)、ろう重複障がい者に特化した施設は浜松になかった  
ろう重複児を育てる母親の方々が、ろう重複児が**生きがいを持って働き**社会に  
参加できる場として、「作業所」を作ろうと決意した

Q.どうしてパン作りを作業の中心にしたのか？

- ・パン作りは、目で見て焼きあがった様子が見れる
- ・色んな工程があり、利用者さんのできること、  
できないことに合わせた作業がある



## 今までの取り組みを振り返って・・・

①Aさんのことを理解する為の手段として、色んなことを試してみる

- ・作業に飽きていたのかもしれない
- ・モチベーションが下がっていたかもしれない  
⇒Aさんの想いを知ろうとした。Aさんにとっての「はたらく」を探った

②地域社会の中で**生き生きと生活するために「はたらく」**ことの重要性を再認識。

- 1人ひとりに担当や役割があり、1人ひとりが輝けることがある。  
⇒**居場所**につながる

### ③「はたらく」ことの支援について考えよう！

- それぞれ違った事業所の方の「はたらく」ことについての視点を知り、日々の支援に活かす
- 障がいをもつ方が「はたらく」ことについて、色んな意見を知り、視野を広げる
  - ⇒障がいをもつ方が「はたらく」ことの価値について言語化できるようになる

あなたが思う「**はたらく**」ことの支援とは何ですか？  
大事にしていること、視点、想いを教えてください

## ご清聴ありがとうございました

